

各位

春寒の候、平素は児童館事業にご理解ご協力誠にありがとうございます。

今年度最後のおたよりをお届けする時期になりました。

地域の方々ともお会いする機会が殆どなくなり、寂しくもあり、残念な気持ち  
がぬぐえない年となりましたが、昨年度とは違うコロナ禍の年であったとも思います。

コロナで何も出来ない一年から、コロナ禍で今までとは違ったやり方の交流も少  
し見出すことも出来たと思っております。しかし、さて、これからどうするか……。今  
までのやり方にもう一工夫が必要か……。大切にしたいのは、地域の方々との交流や  
ふれあい事業、人の繋がりがどれだけ人を救うのか……。それを目の当たりにしてき  
た世代としては、どうしても外せない事もある……。次年度はどう考えていったら良  
いのか……。悩みました。そんな時に、「レジリエンス京都」の発刊を目にしました。

右京区長時代には児童館も大変お世話になり、副市長を退任後、レジリエン  
トシティ京都市統括監にご就任の藤田裕之氏の著書です。

ずっと気になっていた「レジリエンス」という言葉ですが、今一つ良く解らない……。  
しなやかな強さ、回復力、復元力？災害時の対応の言葉なのか？私には少々難  
しいなあ……。理解できるのかしらと思いつつながら拝読させて頂きました。

新年を迎えると同時にオミクロン株の猛威には誰もが震えた時期です。

気持ち沈みそうになりましたが、この本のお蔭で、背筋を伸ばして、又、頑張  
るかな！と思う事が出来ました。

「レジリエンス」という意味には私たちの日々の自分の気持ちや心の中にもあると  
もありました。失敗したり意欲を無くしかけて落ち込んだりしても、何かのきつか  
けで立ち直った後の自分は、別の存在になっている（以前以上に成長した状態）単  
に元に戻るのではなく、元の状態を克服して、より高みに成長する姿を表す言葉  
でもあるそうです。

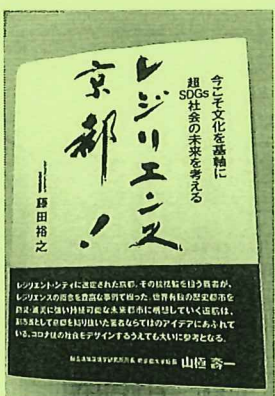
来年度は、コロナに負けず、

地域の方々と一緒にレジリりたい！です。

合言葉は「しなやかにレジリ」だそうです！

今年の流行語大賞めざします？

令和四年三月号のおたよりに添えて



ご本人の許可を頂いて  
掲載しております

社会福祉法人 積慶園 京都市嵯峨野児童館

館長 飯吉昌子